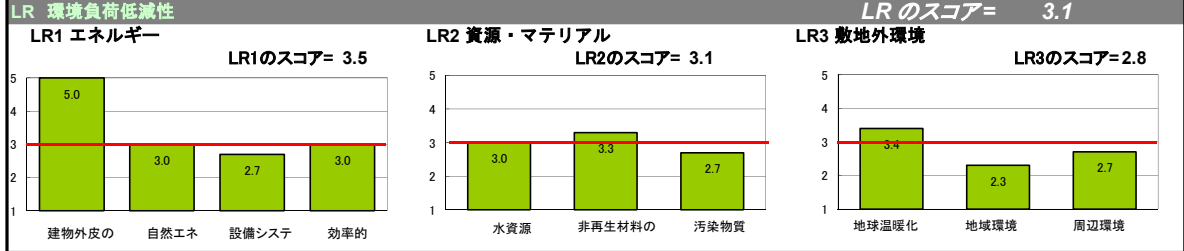
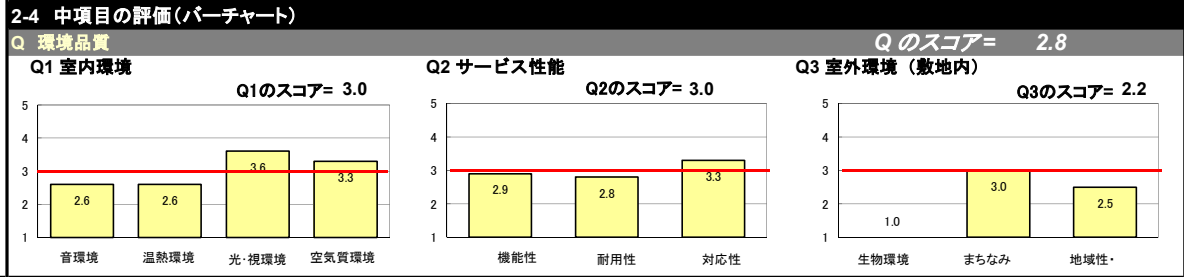
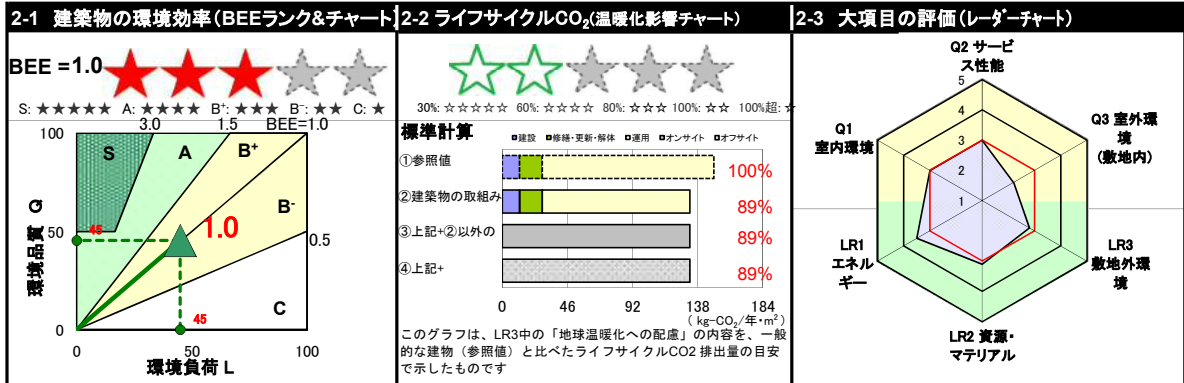


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	オーネスト尚武新築工事	階数	地上4F
建設地	愛知県大府市神田町五丁目6番、7番	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	平均居住人員	120 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2017年11月15日
敷地面積	5,984 m ²	作成者	(株)加藤建築事務所
建築面積	1,627 m ²	確認日	2017年11月16日
延床面積	5,556 m ²	確認者	(株)加藤建築事務所



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">15.6 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部・建物全体・共用部・居住・宿泊部分						全体
配座項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.8 3.0
Q1 室内環境										2.6 3.0
1 音環境										2.6
1.1	室内騒音レベル			2.6	0.15	0.40	2.6	1.00	-	2.6
1.2 遮音										3.0
1	開口部遮音性能			3.0	0.40	0.40	3.0	0.40	-	3.0
2	界壁遮音性能			3.0	0.40	0.40	3.0	0.30	-	3.0
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	0.60	0.60	3.0	0.20	-	3.0
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	3.0	0.20	-	3.0
1.3 吸音										1.0
										1.0
2 温熱環境										2.6
2.1 室温制御										3.0
1	室温			3.0	0.38	0.38	3.0	0.57	-	3.0
2	外皮性能			3.0	0.25	0.25	3.0	0.43	-	3.0
3	ゾーン別制御性			3.0	0.38	0.38	3.0	0.43	-	3.0
2.2 湿度制御										1.0
2.3 空調方式										3.0
										3.0
3 光・視環境										3.5
3.1 昼光利用										4.2
1	昼光率		共用部分 3.0% 宿泊部分 2.7%	4.2	0.30	0.30	4.2	0.30	-	4.2
2	方位別開口			5.0	0.60	0.60	5.0	0.60	-	5.0
3	昼光利用設備			3.0	0.40	0.40	3.0	0.40	-	3.0
3.2 グレア対策										2.0
1	昼光制御			2.0	1.00	1.00	3.0	1.00	-	3.0
3.3 照度										3.0
3.4 照明制御										5.0
										5.0
										3.0
4 空気環境										3.2
4.1 発生源対策										4.0
1	化学汚染物質		F☆☆☆☆を全面的に使用	4.0	1.00	1.00	4.0	1.00	-	4.0
4.2 換気										2.0
1	換気量		居室 1.4倍以上確保	3.0	0.50	0.50	5.0	0.33	-	5.0
2	自然換気性能		自然換気有効開口 居室1/10倍以上	1.0	0.50	0.50	1.0	0.33	-	1.0
3	取り入れ外気への配慮			3.0	0.20	0.20	-	-	-	3.0
4.3 運用管理										-
1	CO ₂ の監視			-	-	-	-	-	-	-
2	喫煙の制御			3.0	1.00	1.00	-	-	-	3.0
Q2 サービス性能										0.30
1 機能性										2.4
1.1 機能性・使いやすさ										3.0
1	広さ・収納性		居室(全て個室):10㎡床面積確保	3.0	0.40	0.40	5.0	0.60	-	5.0
2	高度情報通信設備対応			3.0	1.00	1.00	3.0	1.00	-	3.0
3	バリアフリー計画	独自		3.0	1.00	1.00	3.0	1.00	-	3.0
1.2 心理性・快適性										1.0
1	広さ感・景観 (天井高)		天井高さ 2.5m	3.0	0.30	0.30	3.5	0.40	-	3.5
2	リフレッシュベース			1.0	1.00	1.00	3.0	0.50	-	3.0
3	内装計画			3.0	0.30	0.30	-	-	-	3.0
1.3 維持管理										3.0
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	0.50	-	-	-	3.0
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	0.50	-	-	-	3.0
2 耐用性・信頼性										2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振										3.0
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	0.80	-	-	-	3.0
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	0.20	-	-	-	3.0
2.2 部品・部材の耐用年数										3.0
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.23	0.23	-	-	-	3.0
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23	0.23	-	-	-	3.0
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			4.0	0.09	0.09	-	-	-	4.0
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	0.08	-	-	-	3.0
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.15	0.15	-	-	-	3.0
6	主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23	0.23	-	-	-	3.0
2.4 信頼性										2.2
1	空調・換気設備			1.0	0.20	0.20	-	-	-	1.0
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20	0.20	-	-	-	2.0
3	電気設備			3.0	0.20	0.20	-	-	-	3.0
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	0.20	-	-	-	3.0
5	通信・情報設備			2.0	0.20	0.20	-	-	-	2.0

3 対応性・更新性				3.3	0.29	3.5	3.5	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり				4.0	0.31	4.0	4.0	0.50	
1 階高のゆとり			階高3.8m	4.0	0.60		4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			非居住:0.18、居住:0.27	4.0	0.40		4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー				-	0.40			-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m = 0.79	5.0	0.30			-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			-	3.0
3 設備システムの高効率化			BPI _m = 0.86	2.7	0.30			-	2.7
4 効率的運用				3.0	0.20			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			-	3.1
1 水資源保護				3.0	0.15			-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63			-	3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ビニル系床材、外壁磁器質タイル	4.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体+GL工法で分別が容易	4.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.7	0.22			-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.68			-	
1 消火剤			不活性ガス消火剤を使用	2.0	0.33			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33			-	
3 冷媒				3.0	0.33			-	
LR3 敷地外環境				-	0.30			-	2.8
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率 46%	3.4	0.33			-	3.4
2 地域環境への配慮				2.3	0.33			-	2.3
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33			-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	0.33			-	
2 振動		独自		3.0	0.33			-	
3 悪臭				3.0	0.33			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				3.0	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				1.6	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				1.0	0.70			-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

オーネスト尚武新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:15.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	建物の配置は周囲への日影対策として南西側に配置する。バルコニーを四周設置し日除機能を兼ねる。中庭は排気塔として役割を持ち換気を促す。
Q1 室内環境	全面的にF☆☆☆☆の材料を使用することや適切な換気計画とすることで、室内空気質環境に配慮している。
Q2 サービス性能	耐用年数の長い材料や防汚性材等を採用し、建物の維持管理に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地境界から後退した建物配置とし、可能な限り敷地境界沿いに植栽をすることで、周辺環境に配慮した計画としている。
LR1 エネルギー	適切な外皮性能を確保すると共に、LED照明等による設備システムの効率化を計画することにより、エネルギー消費を低減させることに配慮している。
LR2 資源・マテリアル	節水型器具を採用することにより、水資源の保護に配慮している。
LR3 敷地外環境	建物を隣地境界線より出来るだけ離して配置し、圧迫感を与えないように配慮した。
その他	